

〈加茂地域の文化財〉

津山市の北東に位置する加茂地域では、早くから日本古来の製鉄である「たたら製鉄」が行われ、美作地方で最大級の石室を誇る「万燈山古墳」(まんどうやまこふん)、8世紀中頃の「キナザコ製鉄遺跡」をはじめ、南北朝時代、京都の天龍寺を開山した夢窓疎石(むそうそせき)ゆかりの石造無縫塔(せきぞうむほうとう)、岡山県内最大の中世山城である「矢筈城跡」(やはすじょうあと)、そして県の重要無形民俗文化財に指定されている「物見神社の花祭り」等、さまざまな文化財があります。

そこで、加茂が誇るこの貴重な文化遺産について、「加茂地域の文化財」というタイトルでホームページに掲載し、その魅力を広く皆様にお伝えすることにしました。

【第1回】のテーマは、「京都の天龍寺を開山した夢窓疎石のお墓が岡山県津山市加茂町に？」です。

【第1回】 京都の天龍寺を開山した夢窓疎石のお墓が岡山県津山市

加茂町に？ - その1 -

岡山県津山市加茂町塔中(たちちゅう)の公会堂横を、道なりに200メートルほど山の手へ上がっていくと、「文殊堂」(もんじゅどう)と書かれた青色の案内標識が目に入ります。

標識に従って右折して500メートルほど行ったところに、加茂郷八十八ヶ所霊場の第一番札所となっている「文殊堂」と呼ばれるお堂があり、お堂の背後に、京都の天龍寺を開山した夢窓疎石(むそうそせき)ゆかりの石造無縫塔(せきぞうむほうとう)があります。

無縫塔は、鎌倉時代に禅宗とともに大陸から伝えられ、当初は高僧、とりわけ寺院を開山した僧侶の墓塔として用いられました。

文殊堂の後ろにある石造無縫塔は、花崗岩(かこうがん)製で高さは1メートル19センチあり、板石を2枚並べて基壇としています。基壇上に、下から順に八角形の基礎を置き、その上に同じく八角形の柱状の竿がのり、その上にやはり八角形をした中台がのり、さらにその上に蓮の花の形をした飾りである請花(うけばな)がのり、一番上に卵の形をした塔身が据えられています。この卵形の塔身は、一つの石で造られており縫い目がないことから「無縫塔」と呼ばれています。



文殊堂 (文殊堂) の案内標識



文殊堂 (松溪庵)

一番下の基礎の八角形の部分は一辺が14センチで、正面側の五つの側面には四角いフチの輪郭の中に格狭間(こうざま)が彫られ、基礎の上部は蓮の花びらを下側に反らした形の反花(かえりばな)の蓮弁(れんべん)が施されています。



石造無縫塔

(岡山県指定重要文化財)

また、基礎の上の竿については、八角形をした側面のうち正面部分は風化のため判別しづらくなっているものの蓮華座(れんげざ)の上に光背(こうはい)が陽刻されその中に三尊像(さんぞんぞう)を表したと考えられる三つの楕円が陽刻されています。一方、八角形をした竿の左側面と右側面には中央に蓮華(れんげ…蓮の花)が浮き彫りにされています。



石造無縫塔側面の蓮華

そして、竿の上には上部に複弁の飾りが彫られた八角形の中台をのせ、その上にさらに膨らみのある単弁の請花をのせたうえで、最上部に少し下側を絞った卵形の塔身(高さ33センチ、最大幅33センチ)を置くという手の込んだ造りが施された優品で岡山県の重要文化財に指定されています。

この石造無縫塔の右側には、現在の「文殊堂」の元とになった松溪庵(しょうけいあん)を開山した宝山大和尚のものと伝わる石造宝篋印塔(せきぞうほうきょういんとう)があり、こちらも岡山県の重要文化財に指定されています。(つづく)